

目次

はしがき——石破新政権の発足直後の衆院選

序章 二〇二四年衆院選の位置

白鳥 浩…… 1

——「与党敗北」の選挙への展開——

1 岸田内閣から石破内閣へ…………… 1

2 岸田内閣の権力構造…………… 2

岸田政権の誕生と「三頭政治」 岸田政権下の変容——新たな国際的危機の勃発

3 安倍元首相死去の余波…………… 5

二〇二二年参院選——安倍元首相の銃撃事件と民主主義 自民党の「二つ目のスキャンダル」

——「国葬」と「旧統一教会」問題

4 岸田内閣の支持率の変化…………… 8

広島サミットと「ゼレンスキー効果」 自民党の「二つ目のスキャンダル」——「政治とカネ」と「派閥解消」問題

5 石破内閣の成立…………… 11

総理総裁の交代——「最大のサプライズ」としての岸田首相の総裁選不出馬と「党内野党」石破

茂の当選 二〇二四年自民党総裁選——「派閥なき総裁選」とポスト岸田

第Ⅰ部 衆院選の構図

第1章 「政治とカネ」の震源地の選挙……………	白鳥 浩
——静岡一区・三区・四区・八区——	黒木美来……………19

1 対照的な政令指定都市の選挙——静岡一区・八区	19
--------------------------	----

静岡の二大都市としての「静岡市」と「浜松市」 「政治とカネ」の震源地としての静岡

2 既存メディアの影響——静岡一区	23
-------------------	----

「総裁候補」の選挙 自民党総裁選と「メディア・ジャック」

3 都市部における「選挙インターバル」と「政治とカネ」——静岡一区・八区	25
--------------------------------------	----

石破政権誕生と短期決戦 都市部における勝者と敗者

4 「情報革命」と「SNS選挙元年」——「二〇〇〇万円問題」の風が吹いた静岡四区	27
--	----

「リモート民主主義」と「シルバー民主主義」 「与野党一騎打ち」での国民民主党候補の勝利

5 「政治とカネ」問題と保守分裂——「女性クリーヴィッジ」が影響した静岡三区	30
--	----

「保守分裂」構造の影響——「女性問題」による「裏金議員」の辞職 批判ではなく政策

——現職候補の訴える「富国徳」と裏金候補の「女性クリーヴィッジ」 選挙結果

第2章 なぜ前職は全勝し、比例復活は過去最少となったか……………	芦立秀朗……………37
----------------------------------	-------------

——京都一区・二区——

1 惜敗率の含意	37
----------	----

京都府の選挙区の概要と二〇二四年衆院選の結果の概観 維新候補と惜敗率 次点の

第3章

自然災害後の選挙……

——石川一〇三区——

岡田 浩……52

得票の増加と惜敗率の上昇——京都五区	
2 京都一区における選挙戦	43
京都一区の特徴 「すみ分け」の終焉と野党候補の得票	
3 京都二区における選挙戦	46
京都二区の特徴 前原の動向——国民から教育無償化を実現する会、そして維新へ	
4 二〇二五年参院選への示唆	48
1 令和六年能登半島地震・奥能登豪雨の概要	52
2 投票環境	55
3 選挙活動	57
立候補状況 選挙活動 争点	
4 投票率	59
5 選挙結果	60
選挙結果の概要 投票率低下の選挙結果への影響 自然災害の自民党候補の得票率への影響 メディアへの露出 自然災害による得票へのプラスの影響の要因	
6 自然災害の影響	67

第4章 国政選挙への地方選挙の影響……………白鳥 浩…71

——東京一五区——

1 「東京一五区」としての「江東区」 71

選挙区の特異性——「多様な選挙の対象」としての「同一の選挙民」 選挙インターバル
による実質的な事前運動 相次ぐ自民党議員のスキヤンダル

2 出直し江東区長選——酒井菜摘の地方選挙 75

自民党不在の区長選——出直し江東区長選 維新は自民の代替になるか

3 衆院東京一五区補選——酒井菜摘の国政選挙 78

自民党なき衆院小選挙区補選——東京一五区補選 東京一五区の候補者の判断

4 「階級クリーヴィッジ」と「選挙インターバル」——地方選挙と国政選挙 79

自民分裂——初期編成 自民独自候補不在(1)——脱編成 自民独自候補不在(2)——脱編成

5 衆院解散総選挙——全国最年少自民候補と立憲民主党候補の当選 82

理論的示唆——異なるレベルの「階級クリーヴィッジ」維持と、短期的な「選挙インターバル」
効果 自民党の落日——保守系候補の乱立

第Ⅱ部 与党苦戦の現場から

第5章 自民「逆風」の下での不戦敗と「分裂選挙」……………出水 薫…91

——福岡九区・一〇区——

1 福岡県下小選挙区における動向 92

自民への「逆風」 非維新型野党協力の変化 維新の後退

2 自民分裂首長選挙の影響 96

二〇一九年の自民分裂県知事選 二〇二三年の自民分裂北九州市長選

3 福岡九区における自民の不戦敗 100

4 福岡一〇区における自民「分裂選挙」 103

5 麻生「一強」の終焉? 105

第6章 裏金だけが敗因か……………河村和徳…109

——宮城三区——

1 復興政務三役経験者たちが大量落選した被災地 109

2 裏金以外の西村の敗因 112

組織力の弱体化、そしてコロナ・パンデミック なぜ復興政務三役は落選したのか

3 柳沢の勝因 116

アナウンサー擁立の成功体験 二〇一九年参院選での石垣の勝利 候補者としてのアナ

ウンサーの利点

4 次の衆院選に向けての注目点 122

第7章 負けなかった自公政権……………島田尚徳…127

——沖縄三区——

1 第三区での勝者の変遷 127

沖縄県内の総選挙の結果 肉薄された自公候補者 北部地域での勝利

2 争点化しなかった「辺野古」¹³²

埋め立て工事の既成事実化 言及の低下

3 「国策」による沖縄振興と自公政権¹³³

沖縄振興の概要 北部地域の特徴 「国策」による「沖縄振興」の実像

4 「オール沖縄」対「自公政権」は続くのか¹³⁹

第8章 「常勝関西」陥落……………善教将大…145

——大阪六区——

1 崩れ去った常勝関西¹⁴⁵

公明党の敗北という問い なぜ大阪六区なのか 意識調査の概略

2 公明党の政治活動と選挙戦略¹⁴⁹

「常勝関西」を支える政治活動 大阪六区での選挙運動 外縁をいかに拡げるか

3 ねじれた大阪維新への支持¹⁵²

公明選挙区におけるねじれの実態 大阪維新への支持と投票意向 維新全勝は大阪維新

のおかげか

4 選択肢不在への不満とその帰結¹⁵⁵

党派別の選択肢不在への不満 選択肢不在への不満と投票意向 なぜ公明党は敗北したか

5 岐路に立つ公明党¹⁵⁸

第9章 大阪府における通常化と平準化……………岡本哲和…161

——大阪府下一九小選挙区——

第10章 「民主党王国・愛知」の再生なのか……………後 房雄…176

——愛知七区・一一区・一六区——

1 総選挙結果からみる民主党王国・愛知の現状 176

今回の選挙結果全体の特徴 小選挙区における選挙結果の特徴

2 愛知県における立民、国民両党の候補者調整 183

連合愛知の影響力 愛知県議会での単一会派の維持

3 国民民主党躍進の現場 189

愛知一一区 愛知七区 愛知一六区

4 立民、国民関係の今後 194

第11章 「自公連携の象徴区」の落日……………山本健太郎…197

——北海道一〇区——

1 大阪府下小選挙区での選挙結果 161

2 大阪府の選挙状況と「通常化—平準化」 162

「通常化—平準化」の概念 有力政党としての維新

3 大阪府下小選挙区における候補者のネット利用 163

候補者によるネット利用状況 候補者によるネット利用のタイプ

4 大阪府内小選挙区における通常化と平準化——維新との比較の観点で 168

政党・候補者の地位・性別ごとのネット利用状況 「維新対公明」対決選挙区の状況

回帰分析を用いた通常化・平準化の検証

1 北海道における選挙結果の推移と二〇二四年総選挙 197

2 自公連携の「象徴区」 200

3 稲津の蹉跌 203

二〇二四年総選挙 稲津の敗因(1)——巻き添え事故だったか 稲津の敗因(2)——渡辺処

遇の影響 稲津の敗因(3)——公明票の減少

4 道内における自公連携の今後 208

第Ⅲ部 苦闘する代議士たち

第12章 広大化した選挙区での「非公認」狂想曲……………竹田香織 215

——福島三区——

1 福島新三区の対立構図と選挙結果 215

2 福島県における区割りの見直し 217

3 候補者調整の混乱 221

菅家と上杉の間の候補者調整 裏金問題発覚の余波 さらになる混乱 地区別得票数

から窺えること

4 被災地復興と与党のパイプ 228

第13章 総裁候補と挑戦者たち……………丹羽 功 232

——奈良二区——

第14章

なぜ君は二連勝できたのか

——香川一区——

堤 英敬
森 道哉
247

- 1 選挙に至る動向 232
 - 奈良二区の概観 奈良二区の選挙結果 各党の候補者擁立 自民党総裁選の盛り上がり
- 2 動きの少ない選挙戦 237
 - 選挙区にいない高市 野党側の選挙運動 動きが少なかった選挙戦
- 3 時間の流れの中で選挙を考える 240
 - 奈良二区での投票行動 野党候補者はなぜ立候補するのか(1)——維新支持の盛衰 野党候補者はなぜ立候補するのか(2)——立民の復調と政局の動向 政党支持の波と立候補のタイミング
- 1 八回目の対決 247
 - 二〇二二年衆院選以降の小川の動向 249
 - 二〇二一年代表選への出馬と政調会長就任 二〇二四年代表選の出馬断念と幹事長就任
- 3 香川一区の選挙戦の構図 252
 - 不調に終わった野党共闘 候補者の乱立
- 4 小川の選挙キャンペーン 255
 - 小川の「地上戦」 選挙運動の担い手 小川の「空中戦」
- 5 小川の大勝と得票の減少 258
 - 小川得票はなぜ減ったのか 小川と平井の得票差はなぜ拡大したのか
- 6 小川はなぜ二連勝できたのか 261

第15章 八二歳執念の小選挙区奪還……………伊藤裕顕…265

——岩手三区——

- 1 小選挙区を失った小沢一郎の求心力 265
「小沢的なもの」への忌避感 快勝とはいえない難い当選
- 2 不祥事で頓挫した自民党復権 267
参議院議員の不祥事 藤原崇自身の失策 結束できない自民党
- 3 八二歳か四一歳か——先鋭化する世代交代論 270
原点に立ち返った藤原 自ら世代交代の必要性に言及した小沢 衰退する小沢の集票力 無効票急増が意味するもの
- 4 野党結集の先にある政権交代の虚実 277
もはや保守系政治家ではない 非自民、非保守政権の枠組みを示すべき

人名索引

※本書では政党名や選挙名が頻出するため、適宜次のように略記した。

選挙名：衆院選（衆議院議員総選挙）、参院選（参議院議員通常選挙）、「都知事選」（東京都知事選挙）、「都議選」（東京都議会議員選挙）、「市長選」（市長選挙）、「県議選」（県議会議員選挙）、「市議選」（市議会議員選挙）、など。

政党名：「自民」（自由民主党）、「立民」（立憲民主党）、「国民」（国民民主党）、「維新」（日本維新の会）、「共産」（日本共産党）、「れいわ」（れいわ新選組）、「社民」（社会民主党）、「都民ファ」（都民ファーストの会）、「民主」（民主党）、「民進」（民進党）、「希望」（希望の党）、など。